



# やまね便り

78号

## 図書館職員30人に聞きました！ 読書傾向 赤裸々分析

押忍！わたくし推させていただきます

新館長紹介

たかね図書館で  
ぼくと妹が  
かくれんぼ！  
ど～こだ？



熱血！

新米司書  
シショコが行く！



本の通りに  
作ってみたら

こうし「ことばの海」

図書委員長「とっておきの一冊」

たかね図書館  
Photo:X.Taniguchi

方言三昧！～各地の方言を味わおう～

押忍！

日本語っておもしろい♪

### 『キャン・ユー・スピーク甲州弁？3』

五緒川 津平太／著 樹上の家出版

甲州弁を楽しむなら、やっぱりこの本ずら。甲州弁はブサイクだって？ ほうじゃねえら。この本読んでみろし。甲州弁もかわいいじゃんねえ。



### 『新しい日本の語り4 藤田浩子の語り』

日本民話の会／編 悠書館

「むがあし まずあつたと。」疎開先の福島で聞いたたくさんの昔話。DVD付きなので、読んで、見て、聴いて…藤田さんの福島弁の語りを満喫できる一冊！



### 『あめだま』

ペク・ヒナ／作 長谷川 義史／訳 ブロンズ新社



「どないなってるんや このあめ。」ひとりぼっちのドンドンが見つけたふしぎなあめだま。なめてみると、変な声が聞こえてきた…。コテコテの関西弁の訳がぴったりはある。

K. Saiki

図書館職員30人に  
聞きました！

## ♪ 読書傾向赤裸々分析 ♪

Q. 月に何冊の本読む？

1番多かったのは…

**10冊**

15~20冊読むツワモノもいれば、0冊と答えたショウジキモノもいた！

Q. 本は買う？ or 借りる？

買	1人
借	13人
ど	16人
ら	も

図書館に勤めていれば、「新刊がイチ早く読めていいな～」なんて言う人もいると思うが、新刊は、利用者が優先。職員はいくら読みたい本が入ろうとじっとがまんし、2週間経過後にやっと貸出可能となる。そんな厳しい掻きクリアしたあと、やっと借りることが許されるというのが現状だ。買うのは、きっと待ちきれないからだろう。



寝いときは寝よう！にんげんだもの。  
寝落ちは永遠のテーマ。  
本を読みながらまどろむ。  
それがまた心地いいんだな♪

Q. 読む本はどうやって選ぶ？

多かったのは…

## 推しの作家や本から

利用者の“問い合わせ”にタイムリーに対応すべく、日頃からアンテナを高く広く張り巡らせテレビや新聞、ネットやSNSなど、幅広い情報収集に努めている。



『書けない漢字が書ける本』  
根本 浩／著  
角川 SNSコミュニケーションズ

PCに頼る日常で「あれ、この漢字どう書いたっけ？」と思うのは私だけでしょうか…。リズミカルな語呂合わせで難しい漢字も思い出させてくれる本。



『上流の日本語』  
本郷 陽二／著 朝日新聞出版  
日本語の奥ゆかしさがたっぷり味わえる一冊。乱れつつある日本語の美しさが再認識できる。



『てんぐ、はなをかむ。』  
平田 昌広／作 国土社  
同じ言葉なのに意味が違う同音異義語がテーマの絵本。お子さんと言葉遊びで楽しむのはいかがでしょうか？

H. Uematsu

「同僚の読書傾向を探ってみたい！」という好奇心から、アンケートを行った。結果はいかに？

Q. 1回の読書時間は？

1番多かったのは…

**1時間未満**

職員には主婦が多く、家事のすきま時間や寝る前の貴重な時間を“読書タイム”に充てているようだ。



お気に入りの飲み物をお供に♪  
お気に入りの菓子やブックカバーを使用する♪など  
雰囲気作りにもこだわっちゃう。

図書委員長

# とっておきの一冊♪

北杜市内の中学校の図書委員長さんが、おすすめの本を紹介してくれました。

## 『112日間のママ』 清水 健／著 小学館



この本は、清水 健さんの妻が出産後3ヶ月で亡くなるまでの生き方を書いた感動のお話です。乳がんという病気をわずらいながらも、絶対に負けないと強い気持ち、そしてそれを支える家族の絆がわかるお話です。

明野中学校 早川 小陽

## 『海辺のカフカ』 村上 春樹／著 新潮社



家出したカフカ少年と猫と交流ができる老人カナタ、全く別の場所に生きる二人が織り成す、村上春樹による長編小説。二人の主人公の視点から語られる、彼らの「運命」との対面。この物語の先で、読者一人ひとりが解釈をもち、運命について考えさせられる。

甲陵中学校 麻生 斗吾

## 『世界一やさしい依存症入門』 松本 俊彦／著 河出書房新社



みなさんは依存症のことを知っていますか？私が一番驚いたのは、カフェインが入っているドリンクの依存についてです。自分の体に良いと思って飲んでいても、体の害になることを知りました。みなさんもぜひ読んでみてください。

武川中学校 篠原 結衣

## 『そして、バトンは渡された』 瀬尾まいこ／著 文藝春秋



皆さんの家族は本当の家族と呼べますか？本当の家族とはどのような家族でしょうか。この本の主人公優子は、4回も名字が変わっています。血が繋がっていても本当の家族の形になれることを教えてくれる本です。温かい気持ちになります。ぜひ読んでみてください。

小淵沢中学校 鮎川 海瑠

## 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見 夏衛／著 スターツ出版



全てにイライラした毎日を送る百合。母親とケンカをして家を飛び出し、目をさますとそこは70年前、戦時中の日本でした。戦争で戦って亡くなった人たちが私たちに残したもの。今を大切に生きていこうと思える本です。ぜひ読んでみてください。

泉中学校 図書体育委員長



本の通りに作つてみたら  
**(ちよつとアレンジ)**  
Let's & Try  
フェルトで作る ちいさなお店屋さん  
まつぼくり。/著 日本ヴォーグ社

表紙の可愛すぎるクマの書館と北杜市図書館に惹かれ、作つてみた。みんなさんもぜひ挑戦してみてください。

\* 作品は、明野図書館で見られるよ♪

## \*コラム\* ことばの海

最近、頓に思う。自分の発する“ことば”がどんどん劣化していることを…。メールやSNSの多用で、方法は違えども自分の記す文字量は格段に増えているはずなのに、簡単な単語の羅列や果ては絵文字で済ましてしまう毎日だ。上っ面の表現による量は増えれどもその質が貧しているのは間違いない。

“ことば”と言えば昔読んだ『歌に私は泣くだらう』という本の中で歌人である妻が病院で癌の告知を受け茫然としながら出てきたところ、すでに妻の病状を察していた夫と出くわす場面がある。この場面のことを彼女はたった31文字のことばで切り取った。

「なんといふ顔して われを見るものか 私はここよ 吊り橋ぢゃない」

自分の苦悩まで文字として表現せずにいるのがおそれない鬼気迫る作家の業にも驚愕したが、それにもましてこのときの“情景”や“両者の心理”すべてが眼前にぶわーっと一挙に立ち現れることばの凄みそのものに、思わず深いため息が漏れた。いい本に、そしていいことばに出会えた瞬間であった。

ことばに触れる機会としての“読書”という行為は、あらゆる情報や表現が溢れる現代において大変アナログ的であり、時間もかかる。また難しいことばが出てくればその意味を調べたり、難解な文章では何度も読み返して読み下す努力をこちらに強いたりもする。けれども、そうした努力をして出会ったこれは！という素晴らしいことばは、けっして一過性の存在ではなく、いつまでも自分の心の奥深くに熾火として残り、かつ心を豊かにする糧となる。そしてそれは日頃の自分のことばについて改めて見つめ直す機会をも与えてくれるのだ。

もしあなたがそんな素敵のことばに出会いたいと思うなら、図書館という場所はまさに最適だ。図書館にある膨大なことばの大海上は、あなたが新たなことばに出会うために漕ぎ出すのをひそりと待ち続けている。

『歌に私は泣くだらう  
妻・河野裕子 聞病の十年』  
永田 和宏/著 新潮社





## 新館長紹介

Q：館長にとって図書館とは？

どういう図書館を築いていきたいですか？

この4月に北杜市図書館長に着任しました、田中 伸と申します。本が楽しいと思えるようになったのは30代後半で、若い頃は一切といつても本から遠ざかっていました。

今は本に囲まれた素晴らしい環境の中ですので、司書のみなさんが推薦する本を読んでみたいと思っています。図書館に来て、図書館で購入する本を毎月2回の選書会議で選定していることを知りました。各図書館の司書が、来館者のために意見を出し合って工夫しています。ぜひ図書館に足を運んでもらいたいと思います。

竹内 恵さんの『生きるための図書館』という本を読みました。巻頭に「人に寄り添い、本の声を届ける。子どもにも大人にも、図書館は多様な場であり、図書館員はそこで本との出会いをつくる。」という文があります。図書館という施設だけではなく、そこに勤務する職員の役割がいかに重要かを感じました。

図書館事業の中には、1歳児を対象にしたブックスタート事業や小中学生を対象にした読書マラソンなど、読書に親しんでもらうための事業があります。また、150名を越える図書館ボランティアの皆さんの活動も盛んに行われ、図書館を支えていただいております。そんな図書館ボランティアの方や来館者の皆さんのお声もお聞きしながら、親しみの持てる図書館になればと思います。



『生きるための図書館』  
竹内 恵/著  
岩波書店

## 熱血！新米司書・シショコが行く！



あたしは、シショコ。  
この図書館に勤め始めてまだ3ヶ月…  
まだまだわからないことばかりだけれど、  
今日も元気にがんばるぞ～～～



あたしは、シショコのせんぱい。  
司書になって今年で10年。  
かわいい後輩が入ってうれしいわ。  
さあ、シショコ、今日もビシバシいくわよ～～～

シショコが働く図書館のとある屋下がり…



「あらっ！今入ってきた男性…最近よくお見かけするお方。スラッシュとしたその容姿、そして切れ長の涼しい目元。ス・テ・キ♥（□=□）いけないいけない仕事、仕事っと…」

「あらっ？どうしたのかしら…私の方にまっすぐ向ってくるわわわわわ」



「あの、すみません。こちらの本をお借りしたいのですが。」  
サッ！『阪急電車』有川 浩/著



「あ～～！あなたが通うのは阪急電車が走る神戸三宮線。きっと車窓から見える「生」の文字のオブジェを見つけて、一緒に生ビールを飲もう…なんて誇ってるのかしら…でもっ、でもっ！アタシが通うのは“ゼローカル”の南・海・電・鉄・線…かけて、けっしてあなたの線路とは交差することはないよね～ヒック、ヒック～（涙）」



「もう！シショコ！！やや何ボーッとしてるの！！！」  
「失礼しました。8月25日までの貸出となります。」



「すみません…せんぱい」  
『阪急電車』有川 浩/著  
幻冬舎



北杜市図書館  
ホームページ  
<http://www.lib.city-hokuto.ed.jp>



北杜市図書館  
ツイッター  
@hokuto\_lib



北杜市図書館  
フェイスブック

### 編集後記

「やっぱり読書っていいな」編集をしながらそんなことを思いました。温かい気持ちをもらったり、知らなかつたことを考えるきっかけになったり、自分を見つめ直したり、未知の世界へ想いを馳せたり…その場にいながら、こんなに心を動かせるなんて！！「やっぱり読書っていいな～」（あーちゃん）

編集・発行 北杜市図書館 編集委員:H.Shinohara(明野図書館) T.Suzuki(すたま森の図書館) H.Uematsu(たかね図書館) K.Taniguchi(ながさか図書館)  
K.Hirai(金田一春彦記念図書館) K.Oma(小淵沢図書館) C.Obi(ライプラリーはくしゅう) K.Saiki(むかわ図書館) A.Kawano(中央図書館)

発行日 令和4年8月25日 問い合わせ 北杜市中央図書館(金田一春彦記念図書館内) TEL 0551-42-1374 創刊号 平成17年3月31日(年3回発行)

「あらっ！今度はゆるふわのパーマヘアと黒ぶちの眼鏡がシックですさてきなお方が…今日はいittaiどうしたのかしら♥（□=□）いけないいけない仕事、仕事っと…」

「あらっ？！どうしたのかしら…またまた私の方にまっすぐ向ってくるわわわわわ」

「あの、すみません。こちらの本をお借りしたいのですが。」  
サッ！『ビブリア古書堂の事件手帖』三上 延/著

「あ～～！っアタシはしない古本屋の店主。あなたには何か悩みがあってその本をアタシのお店に持ち込んだのね…あなたの悩みを解いてあげたい、そしてあなたを楽にしてあげたい…でもっ、でもっ！アタシは初対面の方とは、ど～でもいい話をいつまでもしていられる性分だけど、こと“本”的となると思わず体が固まってしまい何も話せなくなってしまう極端な“本見知り”…こんな古書堂の店主ではあなたの力になれるはずないものね…ヒック、ヒック～（涙）おねがい、おねがい…こんなダメなアタシだけど、アタシのことはシショコと呼ばずに菜子（シオリコ）と呼んで～～～！」

「もう！シショコ！！やや何ボーッとしてるの！！！」  
「失礼しました。8月25日までの貸出となります。」



「すみません…せんぱい」  
「はあ～今日は失敗ばっかり。  
私ってやっぱり司書には向いてないのかしら…」

『ビブリア古書堂の事件手帖』三上 延/著 メディアワークス

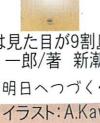
「おじょうちゃん、この本貸してくれるかね？」  
サッ！『くじけないで』柴田トヨ/著 &『置かれた場所で咲きなさい』渡辺和子/著



「あ～～！っウルウル…なんてやさしいおじいちゃん…  
そうだよね～うんうん。こんなダメなアタシだけど  
この場所でありのまま自分で  
強く生きていくことにするわ。キッパリ！  
ありがとう。おじいちゃん！！！」



「おじょうちゃん忘れるところじゃった、  
もう1冊。これもじや。」  
サッ！『人は見た目が9割』竹内 一郎/著  
『くじけないで』柴田トヨ/著 飛鳥新社



「ち～～ん…ブス・ブス・ブス…  
おじょうちゃん、どうしたんじゃあ～なに泣いておるんじゃ～～～」  
負けるなシショコ！がんばれシショコ！明日はきっと晴れる！かも…。シショコの明日へつづく…

文:T.Suzuki イラスト:A.Kawano